当翻訳は，法務省入国管理局による仮訳であり，正確には原文に当たってください。
また，今後当仮訳は精査の上，変更されることがあり得ることにご留意ください。

2016 年世界の宗教の自由に関する報告書：イラン

要旨

憲法は、イランをイスラム共和国と定義し、ジャアファーリ・シーア派イスラム教（Ja'afari Shia Islam）がイランの正式な国教であると明記している。憲法は、全ての法律と規則が、「イスラム基準」と シャリーア（sharia）（イスラム教徒の宗教的・現生的生活を具体的に規制する法）の公式解釈に基づいていなければならないと定めている。憲法は、イラン市民が「イスラム基準に従って」全ての人間的、政治的、経済的及び文化的権利を享受すると定めている。刑法は、*モハレベ[moharebeh]*（神への敵意）や *sabb al-nabi* （「預言者を侮辱する行為」）の罪の他、非イスラム教徒がイスラム教徒に改宗を勧める行為又はイスラム教徒を改宗させようとする行為に対して死刑を定めている。法律は、イスラム教徒市民がその宗教的信条を変える又は放棄することを禁じている。憲法は、憲法に名前が挙げられている 5 つのスンニ派（Sunni）イスラム教が「全面的尊敬に値する」ものとしており、宗教教育及び特定の個人的な問題（結婚、離婚及び相続など）に関する事項において正式な地位を与えている。憲法は、ゾロアスター教徒（Zoroastrians）、ユダヤ教徒及びキリスト教徒（イスラム教からの改宗者を除く）だけが、「法律の範囲内で」礼拝を行い、宗教団体を形成することを認められる公認の宗教的少数派であると定めている。政府は、モハレベの罪で 20 人以上のスンニ派クルド人を含む個人を処刑した。非政府機関（NGO）の「イランのための団結（United for Iran）」が編集したイラン刑務所地図（Iran Prison Atlas）には、宗教的少数派集団のメンバーがその宗教活動を理由として少なくとも 103 人、*モハレベ*の罪で 198 人、「イスラムを侮辱した」罪で 31 人収監されたままであると記載されている。政府の政策を支持しなかったシーア派の宗教指導者は、威嚇と逮捕に晒され続けたと伝えられている。政府は引き続き、バハーイ教徒（Bahais）、キリスト教徒、スンニ派イスラム教徒及び他の宗教的少数派に嫌がらせを加え、尋問し、逮捕するとともに、改宗を勧める行為に対する禁止措置を執行するためにキリスト教徒の宗教的実践を厳重に規制した。政府は、宗教的少数派のメンバーに対し、礼拝所の建築許可証の発行を拒否し、また、雇用や高等教育を受ける機会を奪った他、その宗教資料を押収し若しくはその作成を制限したと伝えられている。治安職員はスンニ派教徒の礼拝所を急襲する一方、新たな礼拝所の建設を禁止し続けた。政府は引き続き、公式声明において反ユダヤ主義や反バハーイ教徒の修辞表現を用いるとともに、ホロコーストを否定する活動を推進した。当局がバハーイ教徒の雇用を阻止した他、バハーイ教徒の事業に制限を課し、又はその店舗の閉鎖を強要したという報告がなされた。

[2016年]9月26日にある男がバハーイ教徒を刺殺した。その後、この男は被害者の宗教を理由に殺害を犯したと警察に語った。複数の消息筋によると、非イスラム教徒と非シーア派、

日本語訳は，法務省入国管理局による仮訳である。

特にバハーイ教徒コミュニティは社会的差別と嫌がらせに直面し続け、雇用主はバハーイ教徒を雇用しないよう又はバハーイ教徒を民間部門の職から排除するよう社会的な圧力をかけられた。スーフィズム（Sufism：イスラム教神秘主義）のメディアとNGOによると、シーア派の聖職者と礼拝指導者は説教及び公式声明で、スーフィズムとスーフィズム信奉者（Sufis）の活動を非難し続けた。ヤルサン教徒（Yarsanis）は、差別と嫌がらせに晒され続けていると報告した。バハーイ教徒は、その墓地が破壊される又は荒らされる事件が少なくとも3件あったと報告した。

米国はイランとの外交関係を一切有していない。米国政府は公式声明、制裁及び外交イニシアチブを利用して、イランが宗教的少数派を虐待し、その礼拝活動に制限を課している状況を非難した。米国政府高官は公の場で、その宗教的信条に関係する理由により収監されている受刑者の釈放を繰り返し要求した。[2016 年]5 月、国務省はバハーイ教指導協議会のメンバー7 人の勾留が継続されていることを非難し、国際的な宗教の自由担当米大使（Ambassador at Large for International Religious Freedom）は、イランのバハーイ教徒及びその他の宗教的少数派を差別している状況を繰り返し批判した。米国は、イラン担当国連人権特別報告官の任期の延長を支持する投票やイランの人権慣行（宗教的少数派に対する迫害の継続を含む）に対する懸念を表明する決議の支持を含め、国連での行動を通じてイラン国内の宗教的少数派集団を支援した。1999 年以降、イランは宗教の自由への特に深刻な侵害に関わった又はこれを容認したとして、1998 年国際宗教自由法（International Religious Freedom Act）に基づき、「特に懸念される国（CPC：Country of Particular Concern）」として指定された。2016 年 2 月 29 日、米国務長官は 2012 年イラン脅威削減及びシリア人権法（Iran Threat Reduction and Syria Human Rights Act）第 221 条(a)(1)(C)項に基づき、同法第 402 条(c)項(5)号に従って、イランを CPC に再指定し、この指定に伴い、イランに対して現在実施している深刻な人権侵害に基づく渡航制限を継続するという制裁措置を講じた。

第Ⅰ節　宗教別人口統計

米国政府は、イランの総人口を 8,280 万人と推定している（2016 年 7 月の推計値）。米国政府の推計及びグローバル・セキュリティ（Global Security）やイラン・プレス・ウォッチ（Iran Press Watch）などの統計報告書によると、人口の 99 パーセントはイスラム教徒であり、そのうち 89~94 パーセントがシーア派、5~9 パーセントがスンニ派（大半が北東部、南西部、南東部及び北西部にそれぞれ居住するトルクメン人、アラブ人、バルーチ人（Baluchis）及びクルド人（Kurds））である。アフガニスタンからの難民、経済移民及び避難民もスンニ派人口の一部を構成するが、スンニ派とシーハ派の内訳に関する正確な統計値は入手できない。スーフィズムを実践するイスラム教徒の数に関して入手可能な公

日本語訳は，法務省入国管理局による仮訳である。

式統計は一切ないが、非公式な報告書は 700 万人と推定している。

米国政府の推計値及び他の機関（グローバル・セキュリティ、イラン・プレス・ウォッチ及びイラン・プライマー（Iran Primer）など）の統計値によると、人口の残りの1パーセント未満を構成する諸集団は、バハーイ教徒、キリスト教徒、ユダヤ教徒、サービア・マンダヤ教徒(Sabean-Mandeans)、ゾロアスター教徒及びヤルサン教徒である。イスラム教以外の宗教的少数派集団の中で最も規模が大きいのは、バハーイ教徒、キリスト教徒及びヤルサン教徒である。

ヤルサン教徒に関する公式統計値はないが、あるNGOと複数のヤルサン教徒指導者は、最大で100万人いると推定している。ヤルサン教徒は政府によりしばしばスーフィズムを実践するシーハ派イスラム教徒として分類されているが、ヤルサン教徒自身はヤルサン教（Yarsan）を独自の信仰（Alhe Haq又はKakaiとして知られている）として認識している。ヤルサン教徒は主に、ロレスターン州（Loristan）とクルディスタン地域（Kurdish regions）に居住している。

国際人権NGOであるヒューマン・ライツ・ウォッチ（Human Rights Watch）のデータによると、バハーイ教徒は少なくとも30万人はいる。

世界キリスト教データベース（World Christian Database）の統計によると、イランにはおよそ28万5,000人のキリスト教徒がいるが、一部の推計値は、実際に報告されている人数よりも遥かに多いキリスト教徒が居住している可能性があることを示唆している。政府の「イラン統計センター（Statistical Center of Iran）」は11 万7,700 人のキリスト教徒がいると推定しているが、イランのキリスト教組織である「エラム宣教団（Elam Ministries）」は30~100万人のキリスト教徒がいると推定している。キリスト教徒の大半は、主にテヘラン（Tehran）とイスファハン（Isfahan）に集中しているアルメニア民族である。アッシリア系キリスト教徒の非公式な推定人数は、1～2 万人と幅がある。アッシリア教会（Assyrian Church）は、アッシリア系キリスト教徒とカルデア系（Chaldean）キリスト教徒を合わせれば7,000人いると推定している。福音派を含むプロテスタントの諸宗派も存在するが、その人数に関して信頼できるデータはない。イラン国外のキリスト教団体は、イランのプロテスタント派の規模を1 万人未満と推定しているが、多くのプロテスタントとキリスト教に改宗した他の信徒はひそかに活動していると伝えられている。

ゾロアスター教徒集団とイラン統計センターによると、およそ 2 万 5,000 人のゾロアスター教徒がいる。

日本語訳は，法務省入国管理局による仮訳である。

テヘラン・ユダヤ人委員会（Tehran Jewish Committee）によると、およそ 9,000 人のユダヤ人がいるが、ある英国メディアの報告書では、1 万 8,000 人～2 万人と推定されている。サービア・マンダヤ教徒は、5,000 人~1 万人いると伝えられている。

第 II 節　政府による宗教の自由の尊重の現状

法的枠組み

憲法は、イランをイスラム共和国と定義し、ジャアファーリ・シーア派イスラム教がイランの正式な国教であると明記している。憲法は、全ての法律と規則が、「イスラム基準」と シャリーアの公式解釈に基づいていなければならないと定めている。憲法は、イラン市民が「イスラム基準に従って」全ての人間的、政治的、経済的及び文化的権利を享受すると定めている。

憲法は個人の考えを調査することを禁じており、如何なる者も「単に見解を持っているというだけで尋問及び攻撃に晒される」 ことがあってはならないと定めている。法律は、イスラム教徒市民がその宗教的信条を変える又は放棄することを禁じている。他の宗教からの改宗を認められるのは、イスラム教に改宗する場合のみである。イスラム教からの背教は死刑を科される犯罪である。法律に基づき、イスラム教徒を父に持つ子どもは、イスラム教徒であるとみなされる。

法律により、非イスラム教徒は、公の場で説得を行ってはならず、イスラム教徒の改宗を試みてはならない。これらの活動は改宗を勧める行為とみなされ、死刑に値する。また、キリスト教徒、ゾロアスター教徒又はユダヤ教徒として認識されていない市民は、教会での礼拝又は十字架など宗教的シンボルの着用といった宗教的表現を公然と行ってはならない。ただし、未公認の宗教団体に属する外国人に関しては幾つかの例外規定がある。

刑法は、*モハレベ*（神への敵意又は神に対して戦争をしかける行為あるいは「人々の生命、財産若しくは純潔を標的として武器を向ける又は危険な雰囲気を醸し出して恐怖を掻き立てる行為」）、*fisad fil-arz*（現世での腐敗－背教又は異端を含む）及び*sabb al-nabi*（「預言者を侮辱する行為」又は「神聖なるものを侮辱する行為」）に対しては、死刑を定めている。

憲法は Hanafi、Shafi、Maliki、Hanbali 及び Zaydi のスンニ派イスラム教が「全面的尊敬に値する」と定めており、これらスンニ派信徒は自由に宗教を実践することができる。 憲法は、これらの宗派が宗教教育及び特定の個人的な問題（結婚、離婚及び相続など）に関

日本語訳は，法務省入国管理局による仮訳である。

して自らの法理に従うことができる、と定めている。

憲法は、ゾロアスター教徒、ユダヤ教徒及びキリスト教徒だけが、公認の宗教的少数派集団であると定めている。これらの少数派集団は、「法律の範囲内で」宗教の儀式や祭式を執り行い、宗教団体を形成することを認められている。また、それぞれの宗教規範に従って個人的な問題と宗教教育を自由に取扱うことができる。政府は、福音派をキリスト教徒として認めていない。法律は市民がイスラム教から他の宗教へ改宗することを禁じているため、政府はアルメニア系又はアッシリア系キリスト教徒（この両集団はイスラム教の発祥以前から存在している）であるイラン市民のキリスト教又は本人若しくは本人の家族が1979年革命以前からキリスト教徒であったことを証明できる市民のキリスト教のみを認めている。また、サービア・マンダヤ教徒は自らをキリスト教徒とはみなしていないが、イラン政府はキリスト教徒とみなしている。これら3つの集団及びユダヤ教若しくはゾロアスター教のいずれにもメンバーとして登録していない市民、又は本人若しくは本人の家族が1979年以前からキリスト教徒であったことを証明できない市民は、イスラム教徒であるとみなされる。認定されている上記宗教的少数派集団のいずれかのメンバーである市民は、当局に登録しなければならない。

登録により、宗教目的でのアルコールの消費など特定の権利が付与される。教会へ行く者が教会に登録しないあるいは未登録の個人が教会に通う場合、教会は閉鎖され、その指導者は当局により逮捕される可能性がある。キリスト教への改宗者は法律によりキリスト教徒として認められておらず、したがって、登録することもできなければ、キリスト教徒コミュニティの認められたメンバーと同じ権利を有する資格もない。

文化・イスラム指導省(Ministry of Culture and Islamic Guidance）及び情報・治安省（Ministry of Intelligence and Security）は、宗教活動を綿密に監視しており、イスラム革命防衛隊（IRGC：Islamic Revolutionary Guard Corps）も教会を監視している。

憲法は、報道が「イスラム原理又は公衆の権利にとって有害である」場合を除き、報道の自由を定めている。ヤルサン教徒やバハーイ教徒など未公認の宗教的少数派は、宗教文書を合法的に作成することも配布することもできないと報告している。

公立学校の宗教教育課程は、教育省（Ministry of Education）により決定される。公立、私立を問わず、全ての学校教育課程には、イスラム教シーア派の教義に関する課程を含めなければならず、大学までに至る次の教育レベルへ進もうとする生徒は皆、この課程に合格しなければならない。スンニ派の学生及び公認の宗教的少数派集団の学生も、イスラム教シーア派の教義に関する課程を受講し、それに合格しなければならないが、これとは別

日本語訳は，法務省入国管理局による仮訳である。

に自らが信奉する宗教的信条に関する課程も受講することができる。

公認の宗教的少数派集団（スンニ派イスラム教徒を除く）は、私立学校を運営することができる。教育省は、公認の宗教的少数派集団が運営する私立学校を監督し、教育課程に関して特定の要件を課す。また、教育省は、授業で使用する全ての教科書（宗教的な内容に関する部分を含む）を承認しなければならない。こうした学校は、独自の宗教教育をペルシャ語（Farsi）以外の言語で提供することができるものの、当局はその内容についても承認しなければならない。少数派コミュニティは宗教教育に用いるテキストをペルシャ語に翻訳するための費用を負担しなければならないため、 当局はそれを検証することができる。このような私立学校の校長は、イスラム教徒又は他の宗教の信徒であるかを問わず、イラン国教に対する忠誠心を証明しなければならない（*gozinesh*検証として知られる要件。これは、政府のイデオロギーと制度に従っているかどうか、また、イスラム教シーア派の政府解釈についての知識があるかどうかを判断するために行う評価である）。

法律は、バハーイ教徒が独自の教育施設を創設することを禁じている。科学・研究・技術省（Ministry of Science, Research, and Technology）が発出した省令は大学に対し、学生がバハーイ教徒であることが明るみになった場合、その学生がさらに高い教育を受けることを禁じ、退学処分にすることを義務付けている。政府規則により、バハーイ教徒は自らバハーイ教徒であると名乗らない場合に限り、学校に入学することを認められている。バハーイ教徒の学生は、大学の入学試験に登録するために、バハーイ教以外の宗教の信徒であると明確に伝えなければならない。大学受験者が入学試験に合格するためには、自ら信奉する宗教に基づき、イスラム教、キリスト教又はユダヤ教の神学理論に関する試験に合格しなければならない。

憲法に従って、公衆により選出された86人の聖職者（その資格には、信心深さと宗教に関する学識が含まれる）で構成される専門家会議（Assembly of Experts）のイスラム教学者が、イランの国家主席とされる最高指導者を選出する。イスラム条例（Islamic ordinances）を「守る」ため、また、イラン国会（Islamic Consultative Assembly）（すなわち、イラン議会又はマジュレス[Majlis]）が可決したイスラム法律に沿っていることを確認するため、最高指導者が任命したシーア派聖職者6人と司法部門が指名したシーア派法律学者6人で構成される監督者評議会（Guardian Council）全ての法律を検証し、承認しなければならない。また、監督者評議会は、専門家会議メンバー、議長及び議員の全候補者を検証し、これらの機関の選挙を監督する。

憲法は、議会がイスラムに反する法律を可決するのを禁じており、また、イランの政治制度若しくは法制度又はジャアファーリ・シーア派イスラム教を国教として定めていること

日本語訳は，法務省入国管理局による仮訳である。

に関係する法律条項を改正してはならないと定めている。

非イスラム教徒は、議会の290議席のうち、憲法に基づき公認の宗教的少数派のために確保されている5議席を除き、代議機関のメンバーに選出されることができず、政府、情報機関又は軍の高位の職に就くこともできない。宗教的少数派のために確保された5 議席の内訳は、アルメニア系キリスト教徒が2 議席、アッシリア系及びカルデア系キリスト教徒が合わせて1 議席、ユダヤ教徒が1 議席、ゾロアスター教徒が1 議席である。

憲法は、公認されているスンニ派の一つの信徒が過半数を占めている地域において、当該地域の規則を制定する際には、当該地域協議会の管轄の範囲内で、当該宗派に従って、かつ、他の宗派の信徒の権利を侵害することのないようにしなければならないと定めている。

憲法に従って、裁判官は成文法に基づき裁判事件について判決を下すべきであるが、そのような法律がない場合、裁判官は「権威のあるイスラムの原典及び真正なファトワ（fatwas：イスラム法学に基づいて発出される布告）」に基づいて判決を下すべきである。

憲法は、非イスラム教徒がイスラム及びイスラム共和国に陰謀を企てる又はそれに背いて行動するということがない限り、政府と全てのイスラム教徒は「イスラムの正義と公正の原則に従って非イスラム教徒を取扱い、かつ、その人権を尊重することを義務付けられる」と規定している。

法律は、殺害されたイスラム教徒及び公認の宗教的少数派のメンバーの家族が賠償金として「ブラッドマネー（殺された人の家族に支払われる賠償金）」又は*ディヤ*（*diyeh：慰謝料）*を請求することを認めている。法律により、バハーイ教徒の家族は、*ディヤ*を受け取る資格が無い。また、この法律に基づき、受取人が公認の宗教的少数派のメンバーである場合は*ディヤ*が減額され、また、女性はイスラム教徒の男性が受け取る金額の半額しか受け取れない。

法律により、非イスラム教徒は司法部門と治安機関（正規の軍隊とは別個の組織）に勤務することができず、公立学校の校長を務めることもできない。政府職員は、選出公職の候補者と公職への応募者をイスラム教の遵守度とイスラム教の知識及びイスラム共和国への忠誠心（*gozinesh*要件）に基づいて選抜する。ただし、公認の宗教低少数派に属する者も*gozinesh*要件を満たせば、下級の公職に就くことができる。イスラム教の原理と規則を遵守しない政府職員は、処罰の対象となり、解雇されるか特定の部門に勤務することを禁じられる可能性がある。

日本語訳は，法務省入国管理局による仮訳である。

バハーイ教徒は、全ての公職から排除されている。バハーイ教徒は、政府の社会年金制度に参加することを認められていない。また、バハーイ教徒は、傷害又は犯罪被害に対して補償金を受け取ることができず、財産を相続することもできない。最高指導者の宗教的布告（ファトワ）は、市民に対し、バハーイ教徒との関わり合いを全て避けるよう促している。

政府は、バハーイ教徒の結婚又は離婚を認知しないが、民間が発行する婚姻認証書（civil attestation of marriage）が婚姻証明書の役割を果たすことを認めている。この婚姻認証書は、結婚を基本的には認定するが、夫婦間の紛争において当事者に法的保護を与えるものではない。バハーイ教徒の活動家は、この制度によって女性は政府が認定した婚姻契約において提供される法的保護を与えられないままの状態に置かれることが多いと報告している。

公認の宗教団体は、その宗教法に従って、婚姻契約書を発行する。

憲法は、公認の宗教的少数派がイスラム教に基づき政党を結成することを認めている。ただし、この政党は遵守すべき数ある規定の中でも特に「イスラムの基準」に違反してはならない。

憲法は、軍がイスラム的でなければならず、イスラム主義の理想に献身しなければならず、また、イスラム革命の目的に献身する者を入隊させなければならないと定めている。正規軍に加え、国内外にイスラム革命のイスラム的性質を支持する責任を担ったイスラム革命防衛隊がある。法律は、信仰する宗教によって兵役が免除されるという規定を設けていない。法律は、軍において、非イスラム教徒がイスラム教徒よりも上の階級になることを禁じている。したがって、宗教的少数派の昇進は制限されている。公認の宗教的少数派に属し、大学教育を受けた者は、兵役義務の期間中に将校を務めることができるが、兵役義務期間が過ぎた後も軍隊に所属し、職業軍人の将校となることはできない。

イランは、市民的及び政治的権利に関する国際規約（International Covenant on Civil and Political Rights）の締約国である。

政府の慣行

アムネスティ・インターナショナル及び他の国際人権NGOによると、政府は、反体制派、政治的改革派及び平和的抗議活動家に対し、*モハレベ（神への敵意）*や「反イスラムプロパガンダ」の罪で有罪判決を下し、これらの人々を処刑した。信頼できるNGOの報告によ

日本語訳は，法務省入国管理局による仮訳である。

ると、イラン政府はモハレベの罪で、スンニ派クルド人を20 人以上処刑した他、宗教に関係する様々な罪で多数の受刑者を収監した。米国に拠点を置くNGOの「イランのための団結（United for Iran）」によると、「神に対して戦争をしかけた」の罪で198人、「イスラムを侮辱した」罪で31人、「地上での腐敗」の罪で12人の政治犯が収監された。政府の政策を支持しなかったシーア派の宗教指導者は、威嚇と逮捕に晒され続けたと伝えられている。政府は引き続き、バハーイ教徒に嫌がらせを加えた他、バハーイ教徒を尋問し、逮捕した。また、政府は、改宗を勧める行為と改宗に関する禁止措置を実施するためにキリスト教宗教指導者の実践を厳重に規制し続けた。治安職員は引き続き、スンニ派に属する既存の礼拝地を急襲し、取り壊した。さらに、政府は、スンニ派の新たなモスクの建設を禁止したと伝えられている。当局は引き続き、シラーズ（Shiraz）にあるバハーイ教徒墓地を破壊した。当局がバハーイ教徒の事業に制限を課し、事業を停止させたという報告がなされた。

ロイター通信など複数の国際メディアの報道やイラン人権国際キャンペーン（ICHRI：International Campaign for Human Rights in Iran）、アムネスティ・インターナショナルなどのNGOの報告によると、スンニ派クルド人がテレビで自白するのが放映されてから1週間後の[2016年]8月2日、政府は20人以上のスンニ派クルド人受刑者をモハレベ、「サラフィー主義（Salafi）集団と関係している」及び「国家の安全保障に反した行動を取った」罪により、ラジャエイ・シャー（Rajai Shahr）刑務所で処刑した。処刑された者の中には、Bahman Rahimi、Mokhtar Rahimi、Yavar Rahimi、Arash Sharifi、Kaveh Veisi、Ahmad Nasiri、Kaveh Sharifi、Behrouz Shahnazari、Talek Malek及び Shahram Ahmadiが含まれていた。NGOがこの罪は拷問を通じて得た自白に基づいたものであると報告したにもかかわらず、裁判所は死刑を支持していた。

また、裁判所は、スンニ派受刑者のMohammad Kayvan Karimi、Amjad Salehi及びOmid Payvandを「イスラム制度に反対するプロパガンダを行い、神に対する敵意を示した」罪で2015年に下された死刑判決を支持した。この判決についても、NGOはこの罪が 拷問を通じて得た自白に基づいたものであると報告している。

IHRDCの報告によると、政府は[2016年]1月、ザンジャン（Zanjan）でイニシャルがH.S.の被告人を モハラベの罪で処刑した。この事件に関する追加情報は得られなかった。

イラン人権通信社（Iranian Human Rights News Agency）によると、[2016年]11月18日、ゴナバディ（Gonabadi）教徒（スーフィズム信奉者）コミュニティのメンバーであるMohammad Eshaqabadiは、テヘランで私服の警官に勾留されてから数日後に死亡した。

コルデスターン（Kurdistan）州、フーゼスターン（Khuzestan）及びスィースターン・バ

日本語訳は，法務省入国管理局による仮訳である。

ルーチェスターンなどスンニ派人口が多い州の住民は、司法部門及び治安機関による抑圧が継続していると報告した。この中には、超法規的殺害、恣意的逮捕、勾留中の拷問の他、宗教的権利の抑圧、基本的な政府サービスの欠如、インフラ・プロジェクト向けの資金不足などの差別が含まれていた。スンニ派教徒の大半は民族的少数派集団のメンバーでもあるため、政府のスンニ派に対する差別の原因が宗教的なものかあるいは民族的なものかを区別することが困難な場合があったとスンニ派は報告している。

バルーチ人の人権擁護活動家によると、バルーチ人のジャーナリストや人権活動家は、恣意的逮捕、身体的虐待及び不公正な裁判に晒された。収監されているバルーチ人の家族はしばしば沈黙を貫くよう圧力をかけられ、また、事件を口外すれば報復すると脅された、とバルーチ人の人権擁護活動家は伝えている。バローチスターン地域の人権団体は[2016年]10 月 19 日、情報・治安省（MOIS）の職員が Sirik タウンシップのスンニ派バルーチ人の女児である Ameneh Issazadeh をムハッラム（Moharam：ヒジュラ暦における一番目の月の名称）の月にソーシャル・メディア上で宗教的儀式を批判した罪により自宅で逮捕した。彼女は数日後、バンダレ・アッバース（Bandar Abbas）にある MOIS 勾留センターから家族に連絡を取ったが、家族は彼女に面会することを認められなかった。

逮捕されたキリスト教徒は、過酷な身体的及び心理的虐待を受けたと伝えられている。キリスト教ニュースウェブサイトの*モハバト・ニュース（Mohabat News）*が報じたところによると、虐待には殴打や独房監禁が含まれることがあったと伝えている。

「イランのための団結」から入手したイラン刑務所地図のデータセットによると、「イスラムを侮辱した」罪による政治犯が31人、モハレベの罪による政治犯が198人、「地上での腐敗」の罪による政治犯が12人それぞれ収監されている他、宗教的少数派集団のメンバー103人以上がその宗教活動を理由として収監されたままであった。バハーイ国際共同体（BIC：Bahai International Community）によると、2016年末現在で86人のバハーイ教徒受刑者が収監されていた。 キリスト教ワールド・ウォッチ・モニター（Christian World Watch Monitor）によると、2016年を通じて82人のキリスト教徒（改宗者を含む）が逮捕された。IHRDCによると、宗教的少数派集団に属する人々又は宗教的少数派集団に代わって活動する人々が少なくとも261人、2016年末現在で収監されたままであった。この中には少なくとも115人のスンニ派教徒、バハーイ教徒80人、キリスト教改宗者26人、スーフィズム信奉者18人、ヤルサン教徒10人が含まれている。

霊的教義の普遍間主義（Interuniversalism）の創設者であるMohammad Ali Taheriは、「神聖さを侮辱した」罪により、収監され、終身刑に服したままであった。地元メディアの報道によると、Taheriは[2016年]9月28日にハンガー・ストライキを始め、失神した後で病院

日本語訳は，法務省入国管理局による仮訳である。

に搬送されたと伝えられている。IHCRIによると、彼の支持者の1人であるSara Saeiは、Taheriが収監されている刑務所の状態に対する抗議活動に参加した嫌疑で[2016年]1月に裁判所に召喚された。10月、治安部隊は、催涙ガスを用いて、また、警棒で参加者を殴打して、Taheri が入院していると思われるBaghiatollah病院の前に集まっていたTaheriの支持者を追い散らし、15人を逮捕したと伝えられている。

イラン担当国連人権特別報告官（UN Special Rapporteur for Human Rights in Iran）のアフマド・シャヒード博士（Dr. Ahmed Shaheed）は、[2016 年]9 月 6 日付報告書の中で、ラマダン月に断食をしない刑罰として引き続き鞭打ち刑が用いられていると語った。

多数のバハーイ教徒が、「宗教的高潔さの侮辱」、「現世での腐敗」、「イスラム制度に対するプロパガンダ」、国家の安全保障に反する行動又は政府が違法だと考えている大学レベルの教育施設であるバハーイ高等教育機関（BIHE : Bahai Institute for Higher Education）との関わりなどの罪で収監され、服役中のままであった。2011 年に有罪判決を受け、懲役 20 年の刑に服している 7 人のバハーイ教指導者のうちの 1 人 Afif Naeimi は心臓病を患っていたため、医学的理由で[2016 年]7 月に仮釈放された。彼は、2016 年末現在で釈放されたままであった。残る 6 人のうちの 2 人 Fariba Kamalabadi と Mahvash Sabet は、5 日間の休暇を与えられた後、刑務所に戻された。ICHRI の[2016 年]8 月 17 日付報告書によると、刑務当局は BIHE の教師を防御し、懲役 13 年の刑に服している弁護士の Abdolfattah Soltani について、家族と面会させることも、十分な治療を施すことも拒否した。バハーイ教の公式オンライン記録によると、懲役 5 年の刑に服していた Amanollah Mostaghim は、医療上の問題が長引いたため、釈放された。

BICは、[2016年]1月24日に24人のバハーイ教徒が宗教活動を理由に長期間の懲役刑を宣告されたと報告した。2016年末現在で、この24人は保釈されて自由の身になり、控訴申立の結果を待っている状況である。BICによると、警察は[2016年]9月28日にシラーズとカラジ（Karaj）のバハーイ教徒14人をその宗教的信条を理由に逮捕した。警察は、[2016年]3月8日にバハーイ教徒の事業主Behzad Zabihi Mahforouzakiを逮捕し、最初は「イスラム制度に反対するプロパガンダ」で、後に「イスラムとコーランに反対するプロパガンダ」で告発した。Zabihiは、勾留センターで7日間費やした後、9億リアル[rials]（$27,800）を支払って保釈された。Zabihが語ったところによると、彼は違法に逮捕され、拷問や侮辱に晒され、自己弁護することを禁じられ、また、信仰を放棄するよう圧力をかけられた。彼の事件の状況に関する詳細情報はなかった。BIHEでの活動を理由に2015年に懲役5年の刑を宣告されたPeyman Koushk-Baghiは、彼の妻で以前に同様の罪で有罪判決を受け、懲役4年の刑に服していたAzita Rafizadehとともに、それぞれに判決に対して控訴した。Rafizadehは引き続き刑に服しているが、Koushk-Baghiは2016年末現在で自由の身となりながら、そ

日本語訳は，法務省入国管理局による仮訳である。

の控訴の結果を待っていた。

BIC によると、政府は引き続きバハーイ教徒が管理機関を設立又は維持するのを禁止し、そのような機関を積極的に閉鎖し、バハーイ教徒に嫌がらせを加え、その財産権を無視した。[2016 年]10 月 4 日、コルベ（Qorveh）で治安部隊が,バハーイ教徒のホメオパシー（代替医療の一種で、「同種のものが同種のものを治す」という原理に基づく治療術）内科医である Maria Kosari の自宅を捜索し、バハーイ教徒に禁じられている分野で開業していることにより衛生条例に違反している罪で彼女を逮捕した。

亡命したキリスト教徒からの報告によると、キリスト教徒、特に福音主義者とイスラム教からの改宗者は引き続き、不釣り合いなレベルの逮捕と勾留、及び高いレベルの嫌がらせと監視を経験した。多数のキリスト教徒が、その宗教的実践に関する罪により2016年末現在で収監されたままであった。人権団体によると、刑務当局は引き続き、幾人かのキリスト教徒を含め、受刑者からの治療要求に応えるのを留保した。人権NGOによると、政府はまた、改宗を勧める行為に対する禁止措置を実施し続けた。

2016年を通じて、聖餐式にワインを飲んだ複数の改宗者が逮捕された。NGOの世界キリスト教連帯（Christian Solidarity Worldwide）の報告によると、キリスト教への改宗者であるYasser Mossayebzadeh, Saheb FadaieとMehdi Reza Omidiは、聖餐式のワインを飲んだ罪で[2016年]5月13日に逮捕された後、9月10日にラシュト（Rasht）市で有罪判決を受け、それぞれ80回の鞭打ち刑を宣告された。2人とも、2016年末現在で判決に控訴を申し立てていた。

世界キリスト教連帯によると、Amin Afshar Naderi、Hadi Asgari、Amir Saman Dashti、Mohammad Dehnavi及びRamil Bet-Tamrazは[2016年]8月26日、フィルーズクー（Firouzkooh）にある私的な庭で聖書を持っていた嫌疑で逮捕された。5人のうちの4人はキリスト教への改宗者であった。イランのキリスト教ニュースサイト「*モハバト*」によると、Naderiは逮捕に抵抗したとして治安部隊に殴打された。[2016年]10月18日、世界キリスト教連帯は、逮捕されたキリスト教徒のうち、Ramil Bet-TamrazとMohammad Dehnaviの2人が保釈されたと報告した。残りのキリスト教徒はエヴィーン（Evin）刑務所に服役中であった。[2016年]8月、当局は、キリスト教への改宗者の自宅を捜索した後、彼を逮捕し、自宅で発見した宗教資料を押収した。彼は、「国家の安全保障に反する行為」で有罪判決を受け、懲役1年を宣告された。英国のオンライン・ニュースサイト「*クリスチャン・トゥデイ（Christian Today）*」によると、[2016年]6月24日、警察は3人のアゼルバイジャン人キリスト教徒が個人のアパートで聖書研究を主導しているところを逮捕した。3人はエヴィーン刑務所に2か月間勾留された後、保釈金を支払って釈放され、アゼルバイジャンへ帰国

日本語訳は，法務省入国管理局による仮訳である。

した。

*モハバト・ニュース*によると、[2016 年]7 月 12 日、刑務官は Ebrahim Firouzi が彼の事件を審理する場に出頭しない旨の公開レターを書いたとして、彼を殴打した。Firouzi は キリスト教に改宗し、キリスト教を実践したとして、「国家の安全保障に反する共謀」の罪で 2013 年に有罪判決を受けた後、ラジャエイ・シャー刑務所で懲役 5 年の刑に服していた。

キリスト教への改宗者Maryam Naghash Zargaranは、2012年に初めて逮捕された後、キリスト教徒コミュニティにおける彼女の活動を理由として、「イスラム制度に反対するプロパガンダ及び国家の安全保障に害を及ぼす共謀」の罪で当初宣告された懲役4年の刑期を終えてもなお刑に服し続けた。*モハバト・ニュース*によると、Zarfaranは刑法の条項に基づき条件付きの早期釈放を求めてハンガー・ストライキを2日間実行した。彼女は体調が優れていないが、医療上の理由による一時釈放措置を適用されていないと伝えられている。

Yousef Nadarkhani 牧師は、[2016 年]5 月 13 日にラシュト市で改宗を勧めた行為により再逮捕された。彼の妻と彼の教会のメンバー3 人も逮捕されたが、その罪状は明らかにされなかった。Pastor Nadarkhani 牧師の妻はその後釈放され、牧師も[2016 年]7 月 24 日に釈放された。3 人の教会員は、2016 年末現在で収監されたままであった。

当局は未公認教会のメンバーを、個人の自宅で違法に活動した嫌疑で、又は敵国を支持し、敵国からの支援を受入れた罪で、逮捕することが多かった。逮捕の多くは、警察が宗教的集会の場を急襲した際に行われ、また、この時に当局は宗教的資産も押収したと伝えられている。

バハーイ教徒及びヤルサン教徒といった他の未公認の宗教的少数派も、個人の自宅に集まり、ひそかにその信仰を実践することが多かった。

NGO の「第 18 条組織（Article 18 Organization）」によると、[2016 年]4 月 27 日、私服の治安職員がテヘランで開かれた私的な社交行事に出席していた 17 人のキリスト教徒を逮捕した。この事件の後、行事の出席者は尋問と威嚇に晒され、その私有財産を押収されたと伝えられている。出席者の中の 2 人は「違法活動」に従事したとして大学での研究を継続することを禁じられる一方、他の出席者は職を失った。その他の複数の出席者は、家庭教会でキリスト教を広めたとして、国家の安全保障に反する犯罪で告発された。[2016 年]10 月 4 日、大学当局はキリスト教の牧師である大学院学生を無許可の宗教活動に従事したとして退学処分にした。

日本語訳は，法務省入国管理局による仮訳である。

政府は引き続き、キリスト教徒の宗教的実践を厳重に規制した。シャヒードイラン担当国連人権特別報告官によると、当局はキリスト教からイスラム教への改宗者がアルメニア又はアッシリア教会に入るのを禁じた。キリスト教コミュニティ指導者によると、アルメニア又はアッシリア教会が新たな改宗者に洗礼を施す又はペルシャ語で説教するのを当局が発見した場合、当局はその教会を閉鎖した。また、当局は、未登録又は未公認のキリスト教徒全員に対して教会構内へ入るのを禁止し、立ち入りを許可した教会を閉鎖し、キリスト教への改宗者を逮捕したと伝えられている。キリスト教徒の擁護団体が語ったところによると、政府は近年、このような圧力と教会の閉鎖を通じて、ペルシャ語による礼拝については少数の教会を除いて全て排除し、礼拝に用いる言語をアルメニア語とアッシリア語に限定した、世界キリスト教連帯によると、政府は引き続きペルシャ語を用いる教会を禁止した。治安職員は、公認キリスト教集会センターを監視し、非キリスト教徒又は改宗者が礼拝に参加していないことを確認するため、礼拝者の身元チェックを行った。この動きに対応して、プロテスタント主義又は他のキリスト教信仰に改宗した市民の多くは、ひそかにその宗教を実践した。

政府は引き続き、シーア派最高幹部の発言と見解を監視した。政府の政策又は最高指導者アリー・ハーメネイー（Ali Khamenei）の見解を支持しないシーア派の宗教指導者は、威嚇、逮捕、そして宗教犯罪に関係する罪による収監に晒され続けたと伝えられている。

最高指導者は、憲法により規定されない超法規的な特別聖職者裁判所（Special Clerical Courts）を監督した。シーア派のイスラム法学者が主宰する特別聖職者裁判所は、司法部門の管理権限外で運営され、聖職者が犯した罪（政府の政策と矛盾する発言及び非宗教的活動など）を調査する任務を担っている。また、特別聖職者裁判所はイスラムの法源を独自に解釈して判決を下した。特別聖職者裁判所は非シーア派イスラム教徒の聖職者を支配するためだけでなく、議論の的になるような見解を表明し、宗教の枠外での活動（ジャーナリズム又は改革論者の政治活動など）に参加するシーア派聖職者を訴追するために利用されたと批評家は語っている。[2016年]8月16日、Majid Ansari法務省副大臣は、大統領を侮辱した個人及び事業体の事案は特別聖職者裁判所で審理されると宣言した。

地元メディアの報道によると、特別聖職者裁判所のコム（Qom）支部は[2016 年]8 月 14 日、聖職者 Hojjatoleslam Ahmad Montazeri を尋問した。この尋問は、彼の父である聖職者の故 Hossein Ali Montazeri が 1988 年に執行された政治犯の大量処刑を非難した際の録音を公表した嫌疑により行われた。 Hojjatolleslam Ahmad Montazeri は、尋問された後、「国家の安全保障を脅かし」、「イスラム制度の秘密を漏洩した」罪で[2016 年]9 月 4 日に逮捕された。9 月 5 日、彼は 7 億リアル（$21,620）を支払って保釈された。11 月 27 日、彼は懲役 21 年の刑を宣告され、その内、6 年間、刑に服することを命じられた。政府は、残

日本語訳は，法務省入国管理局による仮訳である。

りの 15 年間について刑の執行を猶予した。これは、1979 年革命における彼の家族の役割と犠牲に敬意を表したからだと特別聖職者裁判所は語った。

アムネスティ・インターナショナルによると、「*モハレベ*」や「信徒の悪用」などの罪で有罪判決を受けた後、11年の刑期を務めているシーア派聖職者Ayatollah Hossein Kazemeini Boroujerdiは[2016年]1月19日、反復する腹痛、吐き気、嘔吐、眩暈を治療するために内科診療所へ搬送されたが、十分な処置を施されず、刑務職員によりその日のうちに彼の独房へ戻された。

人権活動家通信社（HRANA : Human Rights Activist News Agency）によると、当初 2015 年に逮捕された Grand Ayatollah Mohammad Reza Nekounam は、独房に監禁されている間に脳卒中を起こした後、特別聖職者裁判所に対して医療上の理由による釈放を求めて訴えたにもかかわらず、コム刑務所に収監されたままであった。伝えられるところによれば、当局は更なる調査を行うため、[2016 年]6 月に彼を特別聖職者裁判所に出頭させた。

スンニ派の聖職者と会衆を対象にした逮捕と嫌がらせに関する報告が引き続きなされた。ICHRIが伝えたところによると、[2016年]8月、スンニ派の聖職者でありイスラム教の判事であるHassam Aminiは、ラジャエイ・シャー刑務所のスンニ派クルド人受刑者20人が処刑されたことを批判し、被害者の家族を訪問したことで、情報省から2日間に亘って尋問された。伝えられるところによると、彼の尋問者は、Aminiが「国家に逆らって行動し」、彼の批判は「公衆を混乱に陥れ、司法部門を弱体化させ」、被害者の家族を訪問したことは家族の立場を支持していることを意味していると語った。また、情報省は、スンニ派の宗教学者Hashemi Hossein Panahiがこの処刑を批判した後の8月8日、彼を尋問した。

ゴナバディ教徒（スーフィズム信奉者）のコミュニティに関して報道しているウェブサイトの*Majzooban-e-Noor*によると、ゴナバディ教徒のKazem DehghanとSalahaddin Moradiは、 政府及び/又はその神学理論に対抗する違法集団のメンバーの嫌疑及びイランの安全保障の妨害を共謀した罪で告発された。この事件に関する詳細情報はなかった。

*Majzooban-e-Noor*の[2016 年]2 月 1 日付報道によると、特別聖職者裁判所はカバー（Kavar）の修道僧 7 人に対し、*モハレベ*などの罪で国内追放処分を言い渡した。同裁判所は、Kazem Dehghan、Hamid Reza Arayesh 及び Mohammad Ali Shamshirzan を永久国内追放処分とし、Mohammad Ali Dehghan、Mohammad Ali Sadeghi、Ebrahim Bahrami 及び Mohsen Esmaeili には 7 年間の国内追放処分を言い渡した。

治安職員は引き続き、スンニ派に属する礼拝所を急襲した。報道機関支局の*Al Sharq Al*

日本語訳は，法務省入国管理局による仮訳である。

Awsat が報じたところによると、テヘラン西部のエスラムサヒール（Eslamshahr）にあるスンニ派のモスクが閉鎖された後、国会議員18人がアブドルレザ・ラヒミ・ファジル（Abdolreza Rahmani Fazli）内務大臣に警告書を提出した。モスクの閉鎖は「最高指導者が常に強調しているシーア派とスンニ派の結束と相反する」と国会議員のMahmoud Sadeghiは語った。 また、Sadeghiは、当局がテヘラン・パルス・モスク（Tehran Pars Mosque）を含む他のスンニ派モスクへの参加を妨害したとも語った。HRANAは、イド・アル=フィトル（Eid al-Fitr：ラマダンの終了を祝うイスラム教の大祭）の前夜に私服の治安職員がテヘラン北西部のモスクを急襲し、礼拝者を攻撃したと報告した。

政府は引き続き全ての宗教団体の女性に対し、公の場での「イスラムの衣装」基準（髪を隠し、身体をゆったりとした服装 - *manteaux（外套）とrousari*（ヘッドスカーフ）- で完全に覆う、又はこれに代えて、*chador*（頭と衣類を着用した全身をすっぽりと半円形の布で覆い尽くすもの）を着用するなど）を遵守するよう義務付けた。政府は時として、このような衣装に関する規則の執行を緩和したが、「反イスラム的衣装」を身に着けた女性を、逮捕、鞭打ち刑、罰金、解雇などで罰した。メディア報道によると、[2016年]5月、ガズヴィーン（Qazvin）の男女学生99人は、男女が参加するパーティーに参加した（当局によると、そこで女性はイスラムの基準に照らして不適切な服装をしていた）罪でそれぞれ99回の鞭打ち刑を受けた。

サービア・マンダヤ教徒とヤルサン教徒コミュニティのメンバーによると、当局は公の場で宗教儀式を執り行うための許可を与えず、また、礼拝所の建築許可証の発行を拒否するなど、この両コミュニティに対する嫌がらせを継続した。政府は引き続きスーフィズムを実践するシーア派イスラム教徒としてヤルサン教徒を分類しているが、ヤルサン教徒は独自の信仰の実践者だと自称している。ヤルサン教徒は軍や学校制度で嫌がらせに直面するなど、差別を受け続けていると報告した。また、ヤルサン教徒は出生登録制度においても差別に晒されており、その子どもにヤルサン教徒の名前を付けることを禁じられた。亡命中のヤルサン教徒は、詳細情報を提供せずに、ヤルサン教徒コミュニティのメンバー数千人が治安部隊に逮捕された後、行方不明になったままであると報告した。

情報・治安機関はスーフィズムの著名な指導者たちに対する嫌がらせを継続し、威嚇と情報収集の手段としてスーフィズムの企業を急襲したと伝えられている。また、イスラムに関するスーフィズム集団と政府の解釈が異なるため、政府はスーフィズム集団とその*フセーニヤ*（*husseiniya*：礼拝を行い、教義を教授するための予備的なスペース）に対して法的制限を課し続けた。

人権活動家によると、政府は、信仰する宗教の如何を問わず全ての市民に対し、シーア派

日本語訳は，法務省入国管理局による仮訳である。

の法理学に関する政府の解釈に基づく厳格な規則を遵守することを義務付け、法律に基づき男性と女性に付与される権利に差異を設けるイスラムの法的解釈を維持した。また、政府は、宗教の如何を問わず、イラン全土に亘って、男女の分離と差別政策を実施し続けた。

当局、雇用主、官僚、ホテルなどは、宗教的少数派を特定し、差別するために婚姻契約を利用することが多かったと伝えられている。

政府は、宗教関連の出版物に対する制限を継続した。政府職員は頻繁に聖書を押収し、聖書を印刷しないよう出版会社に圧力をかけ、又は非イスラム教徒の活動を中止させるために非イスラム教の資料を承認しなかった。ヤルサン教に関する書物は、禁止されたままであった。宗教的少数派が出版した書物には、テーマの如何を問わず、カバーに非シーア派の著者を記すラベルを貼付しなければならなかった。

イランのメディアが報じたところによると、テヘランで運営されているスンニ派のモスクは9宇、全国では15,000宇あった。国際メディアとスンニ派コミュニティは、需要に応じる目的でテヘランに新たなスンニ派向けモスクを建築することは認められていなかったと伝えた。スンニ派が報告したところによると、イラン国内に現在あるモスクの数は地元信仰人口の需要を満たしていない。スンニ派は政府による差別の一例として、テヘラン市には100万人以上のスンニ派教徒がいるにもかかわらず、スンニ派向けのモスクがないことを挙げ続けた。政府はスンニ派教徒が自らのモスクを建築する又は自らのモスクで礼拝することを禁じたため、スンニ派教徒はその信仰を実践するため、その場しのぎの地下礼拝堂又は*namaz khane*（*礼拝や瞑想のための青天井の部屋*） に頼らざるを得なかったとスンニ派指導者は語っている。

BICウェブサイトによると、当局はシラーズにあるバハーイ教徒墓地の取り壊しを継続した。同墓地の所在地に建設されるイスラム革命防衛隊の文化・スポーツ・レクリエーションセンターがほぼ完成に近づいていると伝えられている。BICはアルデスタン市議会（Ardestan Municipal Council）を代表する当局が[2016年]10月27日にバハーイ教徒墓地をブルドーザーで整地したと報告した。BICは同市議会とアルデスタン市の金曜礼拝指導者事務所に正式な請願書を提出したものの、当局は調査を開始しなかった。BICが伝えたところによると、同市議会は逆に、当該地域での埋葬を希望する者は特別許可証を得なければならず、許可証なく埋葬を行った者は起訴される旨を記載した横断幕を掲げた。

政府は、1979 年革命後に押収したバハーイ教徒の財産の多く（墓地、聖地、史跡及び管理センターなど）を保有し続けた。また、政府は引き続き、バハーイ教徒がその宗教的伝統に従って死者を埋葬するのを禁止した。

日本語訳は，法務省入国管理局による仮訳である。

BICによると、当局は引き続きバハーイ教徒の事業に制限を課し、バハーイ教徒が生計を立てることを困難にした。政府は、バハーイ教徒の自宅や会社を捜索し、私有財産や商業用財産、宗教資料を押収し続けた。当局がバハーイ教徒の事業に制限を課し、又はバハーイ教徒がバハーイ教徒の祭日を祝うために一時的に閉店した際に、永久に店を畳むよう強要したという報告がなされた。[2016年]4月20日、17の店舗をそれぞれ所有するバハーイ教徒たちがバハーイ教徒の祭日のためにその店舗を一時的に閉めた際、当局はその17の店舗を閉鎖した。店舗には、おもちゃ屋2軒、薬局2軒、タイや修理店1軒、婦人衣料店1軒、眼鏡店2軒が含まれていた。また、当局は、民間企業の経営者にバハーイ教徒の従業員を解雇するよう要請した他、新規事業、事業の更新、商業ライセンスに関するバハーイ教徒の申請書を認可しなかった。

バハーイ教徒コミュニティは[2016年]9月、ハサン・ロウハーニー（Hassan Rouhani）大統領に公開書簡を送り、政府がバハーイ教徒の財産を引き続き押収していることに抗議するとともに、政府が教育と雇用へのアクセスを拒否していることで、バハーイ教徒の経済基盤が蝕まれ、その存続が危うくなっていると訴えた。この書簡に対する政府側からの公開回答はなかった。

NGO「第18条組織」によると、[2016年]7月26日、テヘラン革命裁判所第3支部（Third Branch of Tehran's Revolutionary Court）は、 Mohammadshahrにあるアッセンブリーズ・オブ・ゴッド（Assemblies of God）の避難センターを差し押さえる2015年裁判所命令を確認した。同裁判所は、アッセンブリーズ・オブ・ゴッドが福音主義派活動を行うことによりイランとイスラム世界に侵入する企みに米国政府が資金を拠出したと語った。

スンニ派指導者が伝えたところによると、当局は、スンニ派教徒が圧倒的多数を占める地域においても、スンニ派の宗教文献と一部の公立学校における宗教課程の授業を禁止した。特にクルディスタン地域における他の学校には、学生向けにスンニ派イスラム教専門の宗教課程が含まれていた。アッシリア系キリスト教徒が伝えたところによると、政府は生き続き、アッシリア系キリスト教徒コミュニティが学校で使用する独自の宗教教科書を執筆するのを許可し、政府が検証した後で、その内容を承認した。

バハーイ教徒コミュニティのメンバーは、公立学校の教師と管理者が引き続きバハーイ教徒の子どもをイスラム教に改宗させようとしていると報告した。BICはその[2016年]10月報告書「バハーイ教に係る質問の再考（The Bahai Question Revisited）」の中で、「学生はイスラム教へ改宗するよう圧力をかけられ、宗教教師がバハーイ教徒の信仰を中傷するのに耐えることを要求され、バハーイ教の宗教遺産を侮辱し、歪曲し、厚かましく改ざんし

日本語訳は，法務省入国管理局による仮訳である。

ている公認テキストを用いて指導され、試験され…」と伝えている。 同報告書によると、バハーイ教徒の学生はしばしば自宅からさらに遠くにある学校に編入させられるとともに、自らの宗教を他の学生に教えない又は自らの宗教について他の学生と協議しないよう言われた。

テヘラン・ユダヤ人委員会によると、テヘランでは5つのユダヤ人学校と2つの幼稚園が運営を続けているが、当局はその校長がイスラム教徒であることを義務付けている。ユダヤ人コミュニティによると、政府は引き続きヘブライ語による授業を許可しているが、ヘブライ語教科書、特に宗教に関係しない教科書の配布を制限し、ヘブライ語を教えることが困難になるようにしていると伝えられている。また、政府はユダヤ人学校に対し、他の学校の授業時間割に合わせるため、ユダヤ人の宗教法に違反する形で土曜日も開校することを義務付けていると報告されている。

公立及び私立大学は引き続き、バハーイ教徒の入学を拒否し、その宗教が明るみになったバハーイ教徒の学生を退学処分にした。ICHRIの報告によると、アルボルズ（Alborz）州Abyekにある高等教育学校Ghiyaseddin Jamshid Kashani Institute for Higher Education (GJKI)の学生Faraz Karin-Kani Sisanは、既に学業を2年終えていたにもかかわらず、彼がバハーイ教徒であることに学校の事務職員が気付いた後、[2016年]6月に退学させられた。バハーイ教の教義は個人の信仰を否定してはならないとしているため、バハーイ教徒の多くは国立大学に入学しようとはしなかったと伝えられている。

2016 年を通じて、バハーイ教徒の学生は、大学の入学試験に合格した場合であっても、オンライン登録システムでエラー・メッセージが出るため、その大学への入学登録手続きができなかったと報告した。HRANA によると、アバダン（Abadan）にある高校の卒業生で、バハーイ教徒の Seraj Azadi は、大学の入学試験に合格したにもかかわらず、大学事務局側から、バハーイ教徒学生の大学入学を拒否するために用いられると伝えられている表現である「不十分/不完全な入学手続書類」しか有していないために大学入学登録をすることができないと言われた。

多くのバハーイ教徒は、BIHEが提供するオンライン教育を受けたと伝えられているが、政府はインターネットのフィルター機能やウェブサイトのブロッキング機能を利用してこのオンライン教育を検閲し、このプログラムに関係する教師を逮捕した。BIHEのオンライン及びオフラインによる授業運営は違法であるため、学生と教師はこのプログラムに参加することで逮捕されるリスクに直面した。BIHEの教師Azita Rafizadehは、BIHEで教えたために懲役4年の刑を宣告され、服役中であった。政府はBIHEの学位を認定していないため、BIHEの卒業生は求職の段階で障壁に直面した。

日本語訳は，法務省入国管理局による仮訳である。

サービア・マンダヤ教徒とヤルサン教徒はその申請書にそれぞれキリスト教徒又はイスラム教徒であると宣言しない限り、当局は引き続きサービア・マンダヤ教徒とヤルサン教徒コミュニティが高等教育を受け、政府職員になることを拒否したと伝えられている。

*Majzooban-e-Noor*のウェブサイトによると、新学年の初めの段階で、当局はゴナバディ教徒（スーフィズム信奉者）が大学で勉強することも教えることも禁止し続けた。[2016年]9月、アザド大学シラーズ校（Azad University of Shiraz）の警備員が、大学院での研究が2年目に入るスーフィズム信奉者の弁護士兼人権活動家のFarshid Yadollahi,が同大学で教育を受け続けることを認めなかった。

バハーイ教徒やヤルサン教徒など宗教的少数派集団の代表者が伝えたところによると、政府は, 宗教的少数派集団とその財産（聖地や墓地を含む）に対して行われた犯罪の調査を回避し続けた。

英国の*インデペンデント紙（The Independent）*など国際的な報道機関は、ユダヤ人コミュニティの代表者の発言を引用し、ユダヤ人に対する政府の差別が続いているものの、ユダヤ人の宗教的慣行に対しては政府による干渉がほとんどなかったと伝えた。政府によると、テヘランには公にリストアップされた31のシナゴーグ（ユダヤ教の礼拝堂）がある。テヘラン・ユダヤ人委員会の報告によると、2015年には、テヘランで13のシナゴーグが活動していた。

ユダヤ人コミュニティの代表者たちは、国内外を自由に移動することができると語っており、政府は一般にユダヤ人がイスラエルに行くことを禁止しなかったが、他の市民については禁止した。

政府は宗教を理由に公式に投票権を制限することはなかったが、議会で公認の宗教的少数派コミュニティ向けに確保された議席については別個の選挙プロセスがあった。政府は引き続き、スンニ派、キリスト教徒、ゾロアスター教徒及びユダヤ教徒が議員になることを許可したが専門家会議のメンバーになることは認めなかった。憲法により大統領職の候補者の資格要件を確認する任務を担う監督者評議会は、2016年末までシーア派イスラム教徒のみが大統領職に対する資格があるとみなしていた。

*Mazjooban-e-Noor*の報告によると、大学教授のSharam Pazoukiは、当局が彼とゴンバディ教徒コミュニティとの繋がりを発見した後、アザド大学で教鞭を執ることを禁止された。

日本語訳は，法務省入国管理局による仮訳である。

スンニ派は、コルデスターン州やフーゼスターン州などスンニ派が多数を占める州において、政府が任命する公職に就いている者の割合が不釣り合いに低く、また、高位の官職を得ることができないと報告した。

スンニ派活動家は、2016 年を通じて、特にムハッラムの月に、政府は数百人から成るシーア派伝道者をバルーチ族スンニ派が多数を占める地域に送り込み、その地の住民を改宗させようとしたと報告した。

バハーイ国際共同体によると、バハーイ教徒は引き続き25種類を超える仕事に就くことを政府規則で禁止された。禁止職種の多くは、食品産業に関係していたが、これは政府がバハーイ教徒は「不浄である」とみなしていたからである。

テヘラン・ユダヤ人委員会によると、政府はテヘランで病床が100あるユダヤ人病院の運営を許可した。

バハーイ教徒コミュニティからの報告によると、政府が後援する形で行われているバハーイ教徒に対する公然とした非難は、この数年間着実に高まってきており、2016年についてはイランのメディアで反バハーイ教徒のプロパガンダが20,000回以上行われた。政府メディアの声明はバハーイ教を性的逸脱と非合法的関係を象徴する邪教として非難し続け、その信徒を国家の安全保障を脅かす「カルト（狂信的教団）」のメンバーと呼んだ。

前国会議員Faezeh Hashemi Rafsanjaniは、刑務所から5日間だけ一時釈放されていたバハーイ教徒の政治犯Fariba Kamalabadiの自宅を訪問し、彼女と会ったことで公然と非難された。Rafsanjaniの訪問を受けて、[2016年]5月16日、Tasnim通信社はAyatollah Sadeq Amoli-Larijani司法長官（Judiciary Chief）の発言を引用し、 バハーイ教は「イランの安全保障に対する脅威であり」、バハーイ教徒と交流した高位聖職者の親戚は「規範を損なった」と伝えた。*Javan*誌の記事には「…社会の基準から逸脱したバハーイ教は入植者により創設された」と記載されており、同記事はRafsanjaniにバハーイ教徒を訪問したことを詫びるよう要求している。Rafsanjaniの父であるハーシェミー・ラフサンジャーニー（Hashemi Rafsanjani）元大統領も娘の訪問を批判した。

政府職員は引き続き公式声明で反ユダヤ主義の修辞表現を用いており、また、メディア支局、出版物及び書物でユダヤ人を制裁した。国際ホロコースト記念日（International Holocaust Remembrance Day）の[2016 年]1 月 27 日、 イランの最高指導者アリー・ハーメネイーの公式ウェブサイトは、ホロコーストが実際に起きたのかどうかを問いかけるビデオ映像を掲載し、ホロコーストの否定を非難する欧米政府を批判した。

日本語訳は，法務省入国管理局による仮訳である。

[2016年]4月29日、米国ホロコースト記念博物館（Holocaust Memorial Museum）はイラン政府がホロコースト漫画（反ユダヤ主義の漫画を含む）競技大会に資金を一部拠出していることに言及して、「この競技大会に関係する諸組織は、イスラム革命防衛隊やイスラム指導省（Ministry of Islamic Guidance）を含む政府機関が資金拠出又は支援している。」と語った。最高指導者室が[2016年]1月に制作したホロコーストを巡る事実関係を疑問視するビデオなど政府職員や政府関係の聖職者が反ユダヤ主義声明を出したという報告が引き続きなされた。政府が後援する集会では、「イスラエルに死を」のスローガンが唱えられ、イスラエルと共謀しているとして、バハーイ教徒やキリスト教徒など他の宗教的少数派も非難された。[2016年]6月30日、その経営陣が最高指導者室により任命されている*Kayhan*新聞は、ホロコーストが神話であり、ユダヤ人歴史学者の想像の産物であると記載された記事を掲載した。

公式報告書とメディアは引き続き、キリスト教徒の家庭教会を「違法なネットワーク」及び「シオニストのプロパガンダ機関」と特徴付けている。

政府は引き続き、公認の宗教的少数派集団がコミュニティセンターと資金調達を自ら行う特定の文化、社会、体育及び/又は慈善に関する協会を設立するのを認めた。

第 III 節　社会による宗教の自由の尊重の現状

バハーイ教徒及びその権利を擁護する人々は、バハーイ教徒が引き続き社会的烙印と暴力の主要な標的になっていると報告した。バハーイ世界ニュース・サービス（Bahai World News Service）によると、Farhang Amiriは[2016年]9月26日、ヤズド（Yazd）にある彼の自宅の外で複数の者により刺殺された。犯行者の1人は、警察から尋問を受けている間、Amiriがバハーイ教徒だったために殺害を実行したと語った。

[2016年]3月、2014年に女性を酸で攻撃した事件に関わった襲撃者が当局により逮捕され、「女性に対する意図的な破壊行為、放火及び攻撃」の罪で告発された。事件があった日、襲撃者は被害女性の「不適切なイスラム衣装」に動機付けられていたとメディアは報じていた。

BICによると、バハーイ教以外の宗教の信者は、政府からの圧力に応えて、民間事業の職にバハーイ教徒を解雇した又はその雇用を拒否したことがあったという報告が引き続きなされた。

日本語訳は，法務省入国管理局による仮訳である。

イラン国外にいるヤルサン教徒は、イラン国内でヤルサン教徒に対する差別が広く行われていると報告した。ヤルサン教徒の子どもは学校やコミュニティの共用施設で仲間外れにされた。その特別の髭で認識されるヤルサン教徒の男性は、しばしば雇用差別に直面した。金曜日の祈りに説教師は、ヤルサン教徒に対する社会的差別を促すことが多かった。2016年、警察官が通りでヤルサン教徒の髭を揶揄しているのが見られた後、イスラマバード（Eslamabad）市で抗議行動が起こった。

国際NGOの世界キリスト教連帯によると、イスラム教からの改宗者は、社会的圧力に晒され、家族やコミュニティのメンバーから拒絶された。

シーア派の聖職者と礼拝指導者は、スーフィズムとスーフィズム信奉者の活動を、説教と公的声明の両方で非難し続けたと伝えられている。

スンニ派の学生は、教授が講義の場で、スンニ派の聖職者を日常的に侮辱したと報告した。

[2016 年]5 月 20 日、ファールス州テレビ局（Fars Provincial TV）は シラーズのイマーム（指導者）である Hojjat ol-Eslam val-Moslemin Razavi-Ardakani の説教を放映した。同師は、バハーイ教が宗教ではなく英国により作られた政党であり、情報・治安機関はイラン国内の一部の都市で活動しているバハーイ教徒に十分注意すべきであると語った。

米国にいるバハーイ教の代表者は、バハーイ教徒の墓地が破壊又は損壊した事件が少なくとも 3 件あったと報告した。[2016 年]7 月、コルベ（Ghorveh）にあるバハーイ教徒墓地が完全に破壊され、墓石は粉砕された。セムナーン（Semnan）のバハーイ教徒墓地も 7 月に破壊された。イラン・プレス・ウォッチによると、10 月、破壊者がウルミエ（Urmieh）のバハーイ教徒墓地に 2 度目の襲撃を行い、木々を切り倒し、地面の一部に火を放ち、墓を取り壊した。地元のバハーイ教徒は、この事件を警察に届けたが、警察は行動を一切起こさなかったと伝えられている。

第 IV 節　政府の方針

米国はイランとの外交関係を一切有していないため、イランにおける宗教の自由の侵害及び制約について、イラン政府に懸念を直接提起する定期的な機会がなかった。

米国政府は引き続きイラン政府に宗教の自由を尊重するよう要求するとともに、様々な方法で、かつ、様々な国際フォーラムで、イランが宗教的少数派を虐待している状況を非難し続けた。この中には、米国政府高官による公式声明や米国政府機関が発行した報告書、

日本語訳は，法務省入国管理局による仮訳である。

国連及び NGO の取組みに対する支援、外交活動及び制裁が含まれる。米国政府高官は公の場で、その宗教的信条に関係する理由により収監されている受刑者の釈放を繰り返し要求した。たとえば、[2016 年]5 月、国務省はバハーイ教指導協議会のメンバー7 人の勾留が継続されていることを非難する記者声明を発表し、その釈放を要求した。国際的な宗教の自由担当米大使は、イランのバハーイ教徒及びその他の宗教的少数派に対する差別が継続していることを定期的に批判した。 [2016 年]8 月 24 日の声明で、米大使はイランに冒涜法と背教法の適用を止めるよう要求した。[2016 年]10 月 4 日、米国の国営放送ボイス・オブ・アメリカ（Voice of America）の声明放送で、米大使は、イラン政府が宗教的少数派集団、特にバハーイ教徒に対して差別的措置を講じている状況について米国政府が懸念を抱いていることを繰り返し伝えた。その他の声明で、民主主義・人権・労働担当国務次官補（Assistant Secretary of State for Democracy, Human Rights, and Labor）を含む米国政府職員は、イラン国内の全ての宗教的少数派集団のメンバーの宗教の自由を支援するという観点から、バハーイ教徒とキリスト教徒の状況に関心を向けるよう要請した。

米国は、国連人権理事会（UN Human Rights Council）で、イラン担当国連人権特別報告官の任期を延長する決議を支持した。また、[2016年]11月と12月に開かれた国連総会で、今なお継続している宗教的少数派に対する迫害を含め、イランの人権問題に対する懸念を表明する決議に賛成票を投じた。

1999 年以降、イランは宗教の自由への特に深刻な侵害に関わった又はこれを容認したとして、1998 年国際宗教自由法に基づき、「特に懸念される国（CPC）」として指定された。2016 年 10 月 31 日、米国務長官は 2012 年イラン脅威削減及びシリア人権法第 221 条(a)(1)(C)項に基づき、同法第 402 条(c)項(5)号に従って、イランを CPC に再指定し、この指定に伴い、イランに対して現在実施している深刻な人権侵害に基づく渡航制限を継続するという制裁措置を講じた。

日本語訳は，法務省入国管理局による仮訳である。